

ひょっとしてお気づきの方もありませんがメガネにしました。理由は色々あるのですが、メガネがコンタクトより圧倒的に優れる所が一つあります。外すとよく見えないんです。人の顔が。

こっちの目をまっすぐ見て話してくれる人っているじゃないですか。それならこちらも見返したほうが良いのかなあと思うのですが、なんか気恥ずかしい。そういうときメガネを外すんです。突然にぼやける相手の顔。もう相手の目を直視できますね。見えてないけど。

そんなことでパーフェクトさんらの目撃証言の研究 (Perfect et al., 2008)。「ロフトスカ!」と思ったかもしれませんが、どちらかという逆。なるべく正確な情報を目撃者から得るためにはどうしたらよいか、ビデオを見た後の参加者さんに「目を閉じて内容を思い出して下さい」って頼んだって話です。なんと、それだけで記憶成績が良くなった。目を閉じると正しい証言の数は増えて、正しくない証言の数は増えない。

分かるような気もするけど、でもなんで? 視覚情報をカットできるから服の色とかで迷いにくかったのかな? とも思うのですが、人名みたいな音声記憶も成績が良いので、どうも違う。可能性の一つとして著者たちは、インタビューの顔色を伺わなくて良いぶん集中できたのかもね、と書いています。相手の目を気にして自分の表情を作ったりする必要がなくなったのが良かったのかも、と。

ほっほう。目を閉じてもらえばいいなら簡単だ。子どもでもできる。と思ったのかどうか、いくつか研究が行われています。子どもは大人よりも注意散漫だろうし、目を閉じて集中させるってのは理にかなっている感じもする。ところがこっちは、どうもうまくいくとは限らない。カタカナ表記をあっさり諦めたKyriakidouさんたち (2014)によると、子どもは目を閉じ続けることができないんです。途中で目を開けちゃう子に「ちゃんと閉じ

てね」と注意したりして、逆に集中できなかったりする。残念。(うまくいった! という研究もあるので。)それはともかく大人の皆さんは、相手の目が気になるなら、目を閉じれば良い。でも日常場面でそれはちょっと変だよ。それならメガネを外しましょうと、まあ、そういう話だったわけです。

自分、裸眼だし! って方もいるでしょう。大丈夫。そういう方にお勧めのデバイスを、筑波大学の大澤さんが作ってくださってます (Osawa, 2014)。曰く Agency Glass。メガネに目を貼り付けたんです。「パーティグッズか!」というツッコミは甘い。もっとハイテクです。使用者の目を録画しておいて、メガネに貼り付けたディスプレイに映し出すのです。相手の視線を追って目を合わせたりまでしてくれます。これさえあれば、人の目を気にする必要はない。イライラしてもメガネが代わりに相手に微笑みかけてくれる。すばらしい。教員とか看護師とか、感情労働をする人々を感情サイボーグ化するのだ! と大澤さんは書いておられて、まったく異論がありません。

でもさ、それ使えば学生だって居眠りし放題じゃんと思ったあなた。あなたは正しい。いえいえ、私が言っているものではありません。YouTubeの動画で、推奨されてる使用方法の一つなんです (誰が推奨してるとは言いませんが)。きっと未来の教室では、教員と学生がともに Agency Glass をかけて騙し合いをしているのでしょう。

Kyriakidouさんらの実験も、なかなかシュールで面白いです。ネットで読めるので、ご興味ある方はぜひ。



Profile — 平石 界

東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学、京都大学、安田女子大学を経て、2015年4月より現職。博士 (学術)。専門は進化心理学。